

# 原発対策委員会新聞

社民党福島県  
連合原発対策  
委員会

発行責任者  
小川右善

## 精神的損害賠償申立準備

# ADRへ3000人の請求

## 申し立て打ち合わせ報告

去る十一月十一日、損害賠償・原子力損害賠償紛争解決センター(ADR)申し立てに向けた事務打ち合わせを、先行するいわき、福島、郡山総支部間で行なった。事務打ち合わせ会は、それぞれの取り組み進捗状況をつき合わせた上で、申請資料の整備上、十二月中旬に申し立て申請を準備、概ね、第一陣として、三千人



いわき総支部と県連合は、十六、十七日、原水禁長野・松本市フォーラムを、被災地視察に受け入れた。併せて、十七日は、楢葉町仮設に於いてジャーナリストを志望する早稲田大学生の視察団も合流し、学習・交流を行なった。溢れんばかりの仮設では、自治会のおもてなしを受けて、フォーラムを代表し市議会議員が、視察

を予定することになった。このとりくみは、いわきで組織した東京電力原発事故損害賠償を求めるとの会が積み上げた運動の上に

## 松本フォーラム視察受け入れ

避難地域外の精神的損害賠償を継続して求めることとし、比較的線量の高い福島、郡山地域が、いわきと共に、先行して取り組むこととした。賠償額は、子ども十八歳以下一人八万円、十九歳以上一人四万円、二年分それぞれ二百万円、百万円とした。申し立ての状況を見て全県に広げる考えである。

目的を話した。その後、仮設自治会長が歓迎の挨拶、引きつづき、楢葉町生活支援課の半谷さん、徐染労働者の処遇改善に奔走する全国一般の桂さん。放射能から子どもを守る

## 原水禁・対政府交渉

二〇日、東京・衆議院会館に於いて、子ども被災者支援基本法に関する対政府交渉が開催された。今交渉は、原水禁が設定したもので、撤回と再策定を求めた。具体的には、策定までのプロセス・支援範囲の問題・健康問題・その他を求めた。

前回に引き続きの交渉であり、基本法(案)

福島からは、佐藤・遠藤(党)、フォーラムからは、國分が出席した。終了後、今後の扱い、交渉のあり方など若干の打ち合わせをおこなった。社会的責任・健康手帳などが話題となった。

る母親の会の千葉さん、それぞれから原発事故による今日までの苦悩や現状を報告した。「避難生活が長引くほど帰らない住民が増えている」「労働相談に収束・除染労働者が相談してくる」「危険手当など、杜撰な処遇・環境にある」「子どもたちの健康が心配で母親が学校校庭の放射能測定をはじめた。」一行は、楢葉町の

除染状況・学習会・豊間など津波被害の現状を視察し、フクシマを直視すること、原発被害を実感、フクシマと繋がることとの認識を深めた。また、松本平和フォーラムから、米、野菜など、多大なカンパや、物資が贈られた。



## 一若松フォーラム視察一

とき 2013年11月24日  
ところ いわき・双葉一円  
一広野町・楢葉町・富岡町視察一  
いわき市議団報告・懇親、交流一仮設訪問など

一党全国連合原発事故調査団一  
一、とき 二〇一三年十二月一日(日)～二日(月)  
二、内容 報告・会議・交流・被災地視察など